ニ、架工義齒ノ支臺ニ用ヒラル。

矯 正 科

永久齒ノ根尖端吸收ニ關スル研究

Studies on apical absorption of permanent teeth. By John A. Marshall,

Int.-nat. Jour. of Orth. Jan. 1930

ケッチャム氏ガ1927年ニ矯正手術ヲ行ヘ'ル永久齒齒根端部ニ屢々吸収ノ起ル事實ヲ認メ之レガ統計的觀察ヲ發表セル結果矯正學界ニ種々興味アル問題ヲ提供シタノデア

ル。
著者ハ上述ノ如ク矯正手術ニ際シ器械的刺戟ニ依リテ齒牙ノ移動ヲ行フ場合ニ根尖端部ニ起ル吸収ノ如キ病の症狀ノ發現狀態ヲ動物實驗ニ依リテ確定セントシテ本研究ニ著手シタノデアル。

實驗ニ供セル動物ハ齒牙ノ構造、排列狀態等ニ於テ最モ人類ニ類似セル Macacus Rhesus (猿屬ノ一種) ヲ用ヒ總數15匹デアツタ。

矯正器ヲ裝置セルモノ 5(死亡) Special diet 2(死亡) Regular diet 2(生存) Special diet 2(生存) Regular diet 矯正器ヲ裝置セザルモノ	勿論此ノ實驗ニ於テハ所謂矯正手術ト稍々趣キヲ異ニセルモノデアツテ即チ正位置ニアル齒牙ヲ矯正器ニ依リテ不正ナル狀態トナシ其ノ場合誘起セラレタル根尖端部乃至ハ其ノ附近組織ノ變化ノ狀態ヲ研究セルモノデアル。 實驗ハ次ノ4方法ニ依リテ行ハレタルモノデアル。
---	---

1(死亡) 實驗當初麻醉ニ依リテ 1(生存) Special diet 2(生存) Regular diet	(1) 左右兩側永久中切齒ノ遠心移動。 移動齒ニ帶環ヲ調製シ此ノ兩者ニ彈力線ヲ鑲著シ其ノ彈性ニ依リテ兩者ノ遠心移動ヲ行ヘルモノ。
--	---

15匹 總 計 (2) 廻轉移動。

中切齒帶環ニ鉤ヲ鑲著シ絹絲結紮線ニ依リ廻轉移動ヲナス。

(3) 彈力線ニ依リテ一側中切齒ノ延長ト同時ニ他側中切齒ノ壓入ヲ行ヘルモノ。

(4) 一側中切齒ノ唇側移動ト同時ニ他側中切齒ノ舌側移動ヲ行ヘルモノ。

以上四ツノ方法ニ依リテ齒牙ノ種々ナル移動ヲ行ヒ其ノ各々ニ就テ齒牙及ビ支持組織ノ組織的研究ヲナセルモノデアルガ著者ノ本論文ニ於テ發表セルモノハ實驗ノ一部デアツテ上顎左右兩中切齒ノ遠心移動ヲ行ヘル一例ノミデアル。

矯正器トシテ左右兩中切齒ニ帶環ヲ調製シ之レニ彈力線(「ルーブリナ有セルモノ」ヲ鐵著セルモノデアツテ裝著前ニ本裝置ノ矯正力ヲ測定セルニ大約 $1\frac{3}{4}$ 「ボンド」デアツタ。矯正器裝置後8ケ目左右中切齒ノ遠心移動ヲ行ヘル後其ノ齒牙及ビ支持組織ノ組織の検査ヲ行ヒ次ノ如キ結果ヲ得タト著者ハ報告シテタル。

(イ)兩中切齒ノ遠心移動ニ依リ齒根膜纖維ハ著シク延長セラレタルモ未ダ切斷セラル、ニ至ラナカツタ。

(ロ)齒根尖端部ニ於テ白堊質及ビ齒根膜纖維ニモ相當ノ變化ヲ認メ得タケレドモ白堊質ニ於テハ齒槽骨及ビ齒根膜ニ於ケル程其ノ變化ハ著明デナカツタ。コレハ恐ラク矯正期間ノ短小ニ基因スルノデハナカロウカト論ジテタル。

(ハ)齒槽骨ノ變化。

兩中切齒間ノ齒槽緣頂ニハ殆ンド何等ノ變化ヲ認メラレナイガ其ノ點ヨリ約5耗根尖端ニ近キ部位ニ於テ一側中切齒ヨリ他側中切齒ニ斜メニ走行スル白線ヲ認メ強擴大ニ依リテ之レハ骨折線デアルコトヲ確認シ得タノデアアル。

斯ノ如キ部位ニ骨折ヲ惹起セルハ恐ラク他ニ比シテ此ノ部ガ最モ大ナル張力ヲ受ケタルニ依ルコトハ想像スルニ難カラザルモノデアアル。前述ノ事實ニ徴スルモ日常吾人が矯正手術ニ際シ彈力線ニ附與スル張力ヲ手術前後ニ測定スルノ必要ヲ一層痛感スルモノデアアル。

之レヲ要スルニ以上ノ實驗ニ依リ僅々8ケ月間ノ矯正手術ニ依ルモレントゲン診査ハ殆ンド全テ陰性ナルニモ拘ハラズ組織病理的検査ニ於テハ明ニ齒根尖端部吸收ヲ認メ得タト結論シテタル。

歯科隣接領域

血液病者ニ於テ見タル多發性齒髓壞死

Mortifications pulpaires multiples chez une hémogénique. Par Mm. Chompret, Dechaume et Landais. Paris. La Revue de Stomatologie. No. 1. 1930.

血液及ビ内分泌腺ニ考慮スルコトハ非齶蝕性齒髓壞死ノ諸例ニ於テ特ニ重要ナルコトデアツテ、素因ト疾病トノ關係ヲ理解スルタメニ此ノ二ツノ病理學ノ項目ニ注意ヲ拂フベキハ Jossu ガ主張シタ通りデアアル。著者ハ21歳ノ一婦人患者ニ於テ左側上顎側切齒竝ニ第二小白齒ガ非齶蝕性齒髓壞死ヲ呈シ、同側中切齒竝ニ犬齒ガ失活ニ瀕シテ居ルノヲ見テ病歴ヲ探ツタトコロ次ノ事實ヲ知ツタ。即チ2年餘前患者ハ汽車ノ急